

主題	総合記録シートの活用
副題	ご利用者の状態（食事・排泄・入浴・バイタルなど）を一枚のシートで把握。

記録の活用	記録のダブルチェック	研究期間	2年
-------	------------	------	----

事業所	社会福祉法人 聖風会 特別養護老人ホーム 千住桜花苑		
発表者：渡邊 秀雄（わたなべ ひでお）	アドバイザー：NPO 高齢者ケア研究会 泉田照雄		
共同研究者：木村 輝明（きむら てるあき）氏			

電話	03-5244-6881	E-mail	senju_oukaen@seifuukai.or.jp
FAX	03-5244-6880	URL	http://www.seifuukai.or.jp/

今回発表の事業所やサービスの紹介	千住桜花苑は、足立区千住の下町にあるユニット型の特別養護老人ホームです。特養が100床、ショートステイが20床で、12ユニットとなります。併設のサービスは、デイサービス一般30名・認知症対応型12名、ケアマネジメントセンター、喫茶、隣接には、グループホーム18床を運営しています。法人理念「最高に価値あるものをすべての人に」の下、サービス提供しています。
------------------	---

《1. 研究前の状況と課題》

ご利用者の入院(誤嚥性肺炎・尿路感染など)が続いてしまっていた。重度の肺炎の方なども出てしまっている状況であった。ご利用者の身体的な状態・バイタルの変化などの症状が現れてからの対応となり、入院や症状の重度化を防ぐ事ができずにいた。ご利用者の身体的な状態を早期に把握できていない事が問題であると考え、早期に、そして総合的に状態を把握できることを課題として考えた。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

ご利用者の状態を総合的に把握して、早期に対応をする事。それにより、入院者を半減する事を目標に定める。その為に、総合記録シートを一週間ごとにリーダー・係長でチェックを行っていく事とする。ご利用者の変化に早期に気づき、具体的に対応をしていく事で、利用者の健康を維持していく。それにより、ご利用者のQOLの向上に努める事ができる事を目指していく。

《3. 具体的な取り組みの内容》

食事・排泄・入浴・バイタルなどを一週間分記録できる総合記録シートに、介護職だけでなく、多職種で記録をしていく。

全利用者の状態を、ユニット単位でそのユニットリーダーと係長で、一週間ごとに記録を見直し、状態の変化を確認する事とする(以後、ダブルチェックとする)。

意識的な部分だけでは難しい為、勤務表にダブルチェックを実施する日時を落とし込み確実に実施できるようにする。

変化に対して、その要因を多職種を交えて検討し、具体的な対策・ケアの変更を実施する。

ダブルチェック後の要因分析・対策の検討に職員の力量による差異が生じる為、介護に関する外部研修に参加、また、内部研修を実施し、ダブルチェックの質の向上を図った。

《4. 取り組みの結果と考察》

上記の取り組みにより、総入院日数が23年度2001日から、24年度1287日と減らす事ができた。25年度1374日と少し増えてしまったが、長期の入院を減らす事ができた。ご利用者の変化に対して早期に対応ができていると考えている。

《5. まとめ、結論》

総合記録シートのダブルチェックにより、ご利用者の状態を把握し、早期に対応する事で健康を維持する事ができるようになった。

記録は書く事が目的でなく、見直しより良いケアに繋げることが目的であると実感する事ができた。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、共同研究者に対し、口頭で確認をして、総合記録シートの書式やシステムを発表する事の同意を得た。

《7. 参考文献》

《8. 提案と発信》

特養の入所者は重度化しており、身体的な変化に対して、早期にきめ細やかな対応が大切となってきた。その為には、従来の排泄記録・バイタル記録・入浴記録などの複数の書式では、ご利用者の状態を総合的に把握する事が難しい為、このような総合記録シート、そしてその記録をケアに活かすシステムが必要である。

但し、身体的な安定のみがご利用者の生活の質を上げる事ではなく、身体的な安定を基本として、その上で利用者個別のニーズを叶える事が、本当の意味でのご利用者の QOL を上げる事ができると考えている。

【メモ欄】